

# 日本語指導が必要な生徒の高校進学過程

## —高校生と日本語教育支援者へのインタビューから—

同志社大学大学院 院生 齋藤由香利

### 1. 本研究の背景と問題

- 日本語指導が必要な児童生徒数が増加 (文部科学省, 2015)
- 教育課題の一つ…高校進学率の低さ
- いくつかの自治体の発表による進学率 全国平均 (約98%) より低い50~90%

⇒現在、ほとんどの生徒が高校に進学する中、高校卒業資格を持たずに社会に出ることは生涯に渡り、負の影響を与えることが予想される

- 日本語指導を必要とする生徒の高校進学に関する心理学的研究はまだ少ない。

### 2. 先行研究

竹山・葛西 (2008) は公立中学の日本語支援教室の日本語ボランティア教員9名にインタビューし、外国人生徒の課題、支援の実際、支援者の協働のあり方をM-GTAにより調査した結果、教員が生徒への支援活動を通じ、生徒の精神的支援者としての大きな役割を担っているとした。

竹山 (2008) は外国人高校生 (中国籍)3名、担任教師、多文化共生サポーターを対象に来日当時の様子、周囲との関係、進路、戸惑い、学校生活への適応、支援内容などについてインタビューした結果、生徒の能力の高さ、母国の学校文化に基づく勤勉さ、母国での教科の学習経験、強い精神力と支援が適応を促進し、困難の克服に役立ち、家庭環境が適応に影響することが示唆

→学校内外からの支援と心理的サポートが必要

先行研究からの課題

- 様々な背景の日本語指導が必要な生徒を対象にする必要性
- 具体的な支援方法とその意識を探る必要性

### ※受験勉強方法

①学校教員と (C・E) ②塾 (A・B) ③家庭教師と (D)

①C: 受験勉強は半年だけでした。夜間学校やったから、若い生徒が一人やって、ちょっと先生に教えてもらってました。例えば僕の学校は5時に始まって、いつも僕は2時とか3時に学校行って勉強しました。

②A: 中3から半年くらい塾に行きました。

B: 国語と数学と英語と作文をしました。1週間に2回ペースでやりました。1対1。個別指導。1年間だけ。

③D: お母さんもインターネットで調べて、これ勉強したらできるって。それでフィリピンにいる間、学校終わってから家に帰ったら誰かが来てくれて (勉強した)。

### ※進学意識に関して※

☆日本語指導が必要な生徒にとって必要な受験制度、授業、校風を持つ高校があることで進学意欲がUP

→入試制度面からの配慮は不可欠

☆早めの将来設計→進学の必要性を意識させる

### ※受験勉強方法※

☆中3から勉強開始多→早い段階での支援開始

☆個別指導による指導

☆教員の長時間労働→教員及び生徒への支援が必要

### ※進学過程において※

☆家族の中では母親が進学過程に関わる傾向 (C・D・E)

→早い段階から母親の高校制度の理解をすすめ、情報提供していく必要がある

## 4. 調査2

### 4.1. 調査2の目的

特に日本語支援者の視点から生徒の来日以降の支援の様子や意識、進学過程についてインタビューし、進学に関わる要因とその支援方法、過程を調査する。

### 4.2. 調査2の方法

日本語支援者4名とその日本語指導が必要な生徒7名を対象に、生徒の来日から現在までの生徒の背景や経験、支援方法とその意識、学校関係者や支援者等との関わり、進学意識を把握するため事例研究の手法で分析する。インタビューは半構造化インタビュー (30~60分) で行い、録音、文字化し、分析を行う。

Table 2 調査2の調査対象者 (日本語支援者)

調査対象者	性別	年代	職務	担当生徒	支援した学年	指導歴
W	女性	30代	日本語支援	F G	小6~中1	9年
X	女性	60代	ボランティア	H	小6~中3	14年
Y	女性	50代	日本語・適応指導担当中学校教員	I	中1~中3	10年
Z	女性	70代	ボランティア	J K	中2~中3 中3~現在	11年

Table 3 調査2の調査対象者 (高校生)

調査対象者	性別	年齢	学校 (学年)	出生地	国籍	来日年齢	編入学年	家族構成と使用言語
F	男性	18	公立	日本	日本	12*	小6	母と妹: フィリピン語
G	男性	17	一般校 (2年)	フィリピン	日本	12	小6	母: フィリピン語
H	女性	15	公立	中国	中国	12	小6	父・母: 中国語
I	女性	17	公立特別校 (1年)	台湾	中国	14	中1	継父・日本語 母・弟: 中国語
J	男性	15	公立特別校 (1年)	中国	中国	13	中2	母・弟: 中国語
K	女性	17	私立特別校 (2年)	日本	日本と中国	14	中2	母: 日本語 祖父母: 中国語
L	女性	15	私立特別校 (1年)	ウズベキスタン	ウズベキスタン	15	中3	母: ロシア語 弟: 日本語

※日本生まれ、4歳からフィリピンで生活

### 4.3. 調査2の結果と考察

※進学意識形成 (3タイプ) (②③は調査1と同タイプ)

- ②家族の影響により将来を見据えていた (H・J)
- ③家庭の事情により日本で進学 (K・L)
- ④漠然と将来を見据えていた【先輩の存在】 (F、G、I)

②X: 最初から本人が日本で高校に進学して、大学もできれば日本で行きたいと考えていました。大学もできれば (国立) K大に行きたいと言っていました。母: 親がすごく教育熱心で、親もそのつもりでした。

J: 最初はお母さんが勧めで、で自分もなんとか (中略) 数学とかできないからもっと勉強したいから、選んだんです。

③K: 私はすごくいきなりひっぱられた感じなんで (中略) 親の目的は (中略) 日本だったら、やっぱり (人口が少なくて) 受験しやすい面もあったので、日本で大学を受けてほしいというのもあったと思います。 (中略) 自分でもわかってたんです。中国にずっといても、いい大学にはたぶん入れないかな、みたいな。

④F: 普通に高校いかなあかんって感じで。絶対行かなあかんって。G: そういうきまりなんです。

I: (高校進学は) 自分で決めました。 (中略) 大学いきたい (から)。

### 【引用文献】

宮島倫 (2014)『外国人の子どもの教育 就学の現状と教育を受ける権利』東京大学出版会  
 大阪人権教育協議会 (2015)『大阪の子どもたち-子どもの生活自書-2015年度版』大阪人権教育協議会  
 岡村桂代 (2012)『ニューカマー-中学生の困難対応におけるソーシャルサポートの活用-日系ブラジル人生徒のソーシャルサポートのリソースと機能を中心に-』人間文化研究論叢 14, 37-45  
 竹山典子 (2008)『在日外国人生徒の心理的支援のあり方』異文化間教育 27, 62-74  
 竹山典子・葛西真知子 (2008)『日本語ボランティア教員による外国人生徒への支援-日本語支援教室を中心とした心理・社会的支援システムの構築に向けて-』コミュニティ心理学 11, 144-161  
 NBEJ 中からの引用  
 文部科学省『高等学校教育の現状』  
[http://www.mext.go.jp/composite/n\\_menu/education/detail\\_csf/01/02/17/1299178\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/composite/n_menu/education/detail_csf/01/02/17/1299178_01.pdf)  
 文部科学省『日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査 (平成26年度)』の結果について  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/27/04/\\_csp/01/06/26/1397044\\_01\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/27/04/_csp/01/06/26/1397044_01_1.pdf)

### ※ (主な) 志望校選択要因 (3タイプ)

- ③家庭の経済的事情と学力 (F)
- ④学校説明会と校風 (H)
- ⑤教員や支援者の提案 (G・I・J・K・L)

③F: お金の関係とか。自分で働いて、お母さんに手伝わってというのとは普通の高校入らんだら自信がなくて、絶対落ちるって考えたので。I (高校) やったら簡単に入れる? 簡単じゃないけど僕のレベルやったら、あれで受かって良かったです。【補足: 定時制に進学】

④H: 夏休みにいろんな学校の学校説明会に行って、ここがいいなと思って、Y (高校) 選びました。学校の雰囲気が良かったんです。文武両道とか先輩とかも明るくて、挨拶とかもしてくれて、ここがいいなと思いました。

⑤J: 最初は先生が言って、F (高校) は行ってみたらどうですかって言った。お母さんに言ったら (中略) 関係も良かったと思います。で、自分もそう思ったから選びました。

### ※受験勉強方法

Table 4 受験勉強方法

生徒	勉強方法、生徒が受けた支援内容
F	中学校で作文と面接練習
G	中学校でボランティアの先生による支援・先輩から教材をもらい自習
H	X先生と国語、数学は過去問、歴史は自分でノートまとめと過去問 (週に2回、2時間) ・塾で数学と英語 (半年間)
I	センター校 (Y先生)、多文化進学塾で日本語、数学、英語、母語作文 (中国語) 支援
J	担任の先生による放課後の数学と英語の支援・センター校 (Y先生)、多文化進学塾で日本語、数学、英語、母語作文 (中国語) 支援
K	Z先生と小論文の過去問、面接練習・塾で数学の過去問、中学校で面接指導・小論文自習
L	担任による母語作文支援 (ロシア人留学生に添削依頼)、面接指導・Z先生による支援 (日本語学習・面接指導)

日本語支援者の他、学校教員、塾や学習支援教室等、様々な立場の人が支援に関わり、熱心な指導が行われた

### ※日本語支援者の関わり

Y先生: 私達としてはどこがいけるのか色々考えて、在籍校の先生とも相談しました。(学校関係者、支援関係者を含む)

X先生: (Hに対して) 進学ガイダンスに中一の時から行かせました。母親も一緒にね。

Z先生: Lさんに (高校の先輩) Kさんを会わせました。→高校の話をKからLに聞かせる

W先生: 2月、ちょうど前期試験が終わったところに、二人にメッセージを送って、聞いたら、F君はI高校に合格が決まったと、G君は前期でK高校に合格できなかったけど、後期また受けるって。それで二人に励ました、合格のお祝いのメッセージを送りました。

### ※日本語支援者の意識

生徒の現状、家庭生活、他の支援も把握し、進学への道筋を整え、生徒の弱点を補い、支えることを強く意識→進学の実現

### ※進学と母親に関する発話

過程D: フィリピンいたとき。いあお、もうお母さんはこのF高校で連絡とってくれとたし、受験の準備はできました。

過程 Eさんの母: M chan, her mother work in Indonesian Embassy. She can not speak Japanese. She entered in G高校. I take a line contact with school and get information in this city, and go to open school. The teacher told us all about the school.

志望校 F: 【定時制選択について】やっぱりね (5秒考える) お金の関係とか。なんか自分で働いて、お母さんに手伝わって。

意識 C: 僕がここ (高校) に入ったのは、お母さんをうれしく思っていたから、大学までおわって、それで、仕事、いい仕事に就きたいって思う。

意識 E: (将来の夢は) 言語学者. I want to go to university.

【補足: 母親が研究者】

意識 K: 親 (母) の目的はやっぱり (中略) 日本で大学を受けてほしいというのもあったと思います。

意識 X先生: (Hの) 親がすごく教育熱心で、親もそのつもり (高校進学) でした。母親は資格をもって、仕事もしているんですが、そういうのもあって教育熱心でした。

調査1と同様、進学過程において家族の中では、特に進学意識に関して母親に関わる傾向 有

⇨父親に関する発話 (少) (X先生: 両親が教育熱心/D: お父さん、お母さんの決めた道やから)

⇨一方、母親 (家庭) の関わりが少ない生徒もいる (A・B・G・I・Lは進学に関して具体的な家庭の関与を述べず)

### 5. 総合考察

①進学に際し生徒が支援を必要とする事柄は数多く、日本語や学習面への支援だけでは不十分

日本語支援者→日本語支援+心理的支援+進学支援  
1人の生徒に複数の支援者が関わる可能性 (高)  
=学校と家庭に関わり、協働し、支援 (要)  
《竹山 (2008)、竹山・葛西 (2008) と同結果》

②進学過程において家庭の関わりがない生徒が見られるものの、家族の中では母親が子どもの進学意識に影響を与える傾向があり進学実現のためには早期の母親へのアプローチの重要性が示唆される。

理由: 母子家庭 (多)  
(母子家庭6名、母親のみ来日2名/12名中)  
これまでに母と子が接してきた時間がより長い (母の意識が伝わる・親孝行意識UP)

《岡村 (2012)》: 母親が「相談相手」「進路情報提供」「進路選択肢提供」などの機能を持つ  
★今後、母親への支援の有効性検討 (今後の課題)

③生徒にとって必要な学校環境、入試制度も望まれる (受け入れ態勢整備・教育理念・雰囲気・母語支援・教員及び日本人生徒の異文化理解)  
※本研究の結果は限られた調査対象者のため一般化は難しい